

国際交流クラブ7月例会（第1回）の実施報告



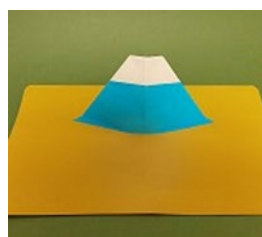
7月28日(火) 午後6時半から当財団主催の国際交流クラブ第1回交流会をオンラインで実施しました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初めて対面でのワークショップではなく、Zoomを使ったオンライン形式での講座となりました。テーマは「体感!!! 日本文化の真髄—みんなで折り紙を作ってみよう!!!」と題して、日本折紙協会講師の宮本眞理子(みやもと まりこ)先生にお願いして、日本の伝統文化のひとつである折紙の魅力について解説

いただき、九州大学の留学生達にオンライン画面で折紙づくりを体験していただきました。国籍はインドネシア、ベトナム、フィリピン、ネパール、 Bangladesh と多彩でした。

折り紙（おりがみ、折紙）とは、紙を折って動植物や生活道具などの形を作る日本伝統の遊びとして知られていますが、近年では折り紙の芸術的側面が再評価され、昔にはなかった複雑で優れた作品が生み出され、各国に伝承する折り方に加えて、新しい折り方も考案され続けており、宮本先生はその先導役として日本全国、さらには世界各地に折紙の魅力を伝えるべく日々努力されています。参加した15名近い留学生は宮本先生の指導を受けながら、折り紙用の和紙や紙を使って富士山、鶴、ミニブローチの折り紙を制作しました。オンラインなので実地で目の前で習うことができず、もどかしい様子ではありましたがコロナ禍で自宅学習が続く中、つかの間の息抜きになったのではないかと思います。



宮本先生の折り紙作品



富士山のPOP-UPカード



鶴



ミニブローチ